

1 美里町水道事業経営戦略について

1 策定の趣旨

- 本町の水道事業は、高度成長期に整備された水道施設の耐用年数が経過し更新時期を迎えている。
- 水道水の安定供給を継続するためには建設事業への投資を増加する必要がある。
- 本町では、人口が減少することが見込まれており、水道料金収入は減少することが想定される。
- 水道は、日常生活に欠くことない重要なサービスであり、将来にわたり安定した水道事業の継続が必要であることから、経営の基本計画である「経営戦略」を策定するもの。

2 第2次経営戦略について

- 美里町水道事業経営戦略は、美里町の水道事業における経営の基本方針、事業執行計画を定めたもの。
- 経営戦略の主な内容は、水道事業と地域の現状、将来見通しを踏まえた「投資・財政計画」
- 経営戦略の策定は、期間を10年以上とし、5年以内に見直しを行うもの。
- 美里町水道事業経営戦略の計画期間は、平成29年度から令和8年度までの10年間であったが、5年ごとの計画見直しに伴い、新たに第2次経営戦略として策定

3 計画期間

令和4年度から令和13年度までの10年間



2 美里町水道事業の概要について(水道事業の現況)

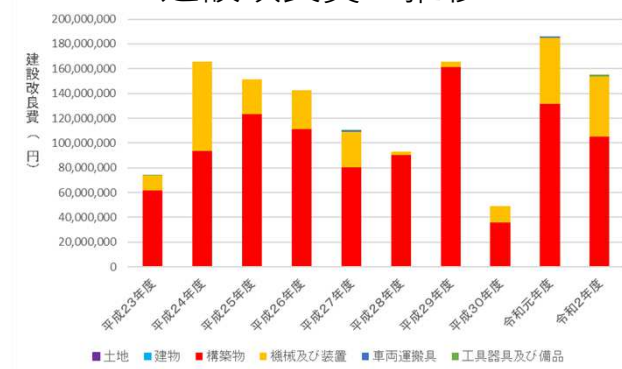
1 水道施設について

- 本町の水道事業は、88億5,580万円（令和3年3月末日時点）の有形固定資産を所有
- 主な所有資産は、水道水を供給するための浄水場、取水場、配水池等の施設や水道水を供給するための配水管
- 平成23年から令和2年度まで10年間の建設改良費総額は、12億9,200万円
- 主な建設改良費の内容は、老朽化した管路の更新工事、配水池の災害対策

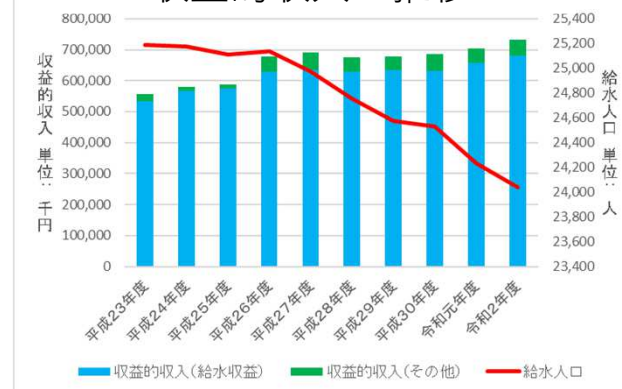
2 経営状況の推移

- 収益的収入は、給水収益（水道料金）が90%
- 本町の給水人口は、10年間で1,000人以上減少
- 今後も人口減少等の影響により給水収益は減少する見込み
- 本町の水道料金は、給水人口、給水量の減少による給水収益の減少と管路更新、企業債償還額の財源確保ため、令和元年10月に料金改定を実施
- 収益的支出については、管路の老朽化のため、大規模な漏水事故が多発し、修繕費が増加
- 漏水事故の対策のため、老朽化した管路の更新により減価償却費が増加する見込み
- 災害による特別損失については、復旧に要する費用が事業経営に与える影響が大きい反面、推計で見込むことは困難であるため未計上
- 水道事業として、災害による損失に耐えうる経営体力の構築が必要

建設改良費の推移



収益的収入の推移



収益的収支の推移

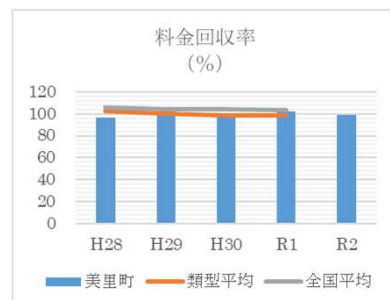


3 美里町水道事業の概要について(経営指標分析)

1 料金回収率

- 料金回収率は、1 m³当たりの給水に係る費用が給水収益で賄えているか表した指標
- 数値が高いほど適切な料金収入
- 本町の料金回収率は、全国平均を下回る水準

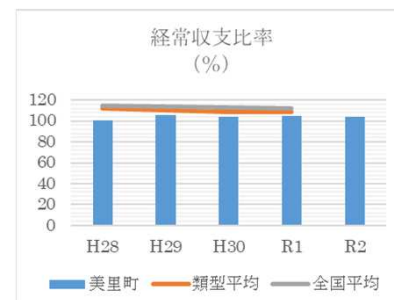
年度	H28	H29	H30	R1	R2
美里町	96.48	102.14	100.40	102.20	98.60
類型	102.38	100.12	98.66	98.64	—
全国	105.59	104.36	103.91	103.24	—



2 経常収支比率

- 経常収支比率は、給水収益等の経常収益で維持管理費等の経常費用を賄えているかを表した指標
- 数値が100%以上で経常収支が黒字
- 本町の経常収支比率は、100%を上回るが、全国平均を下回る水準

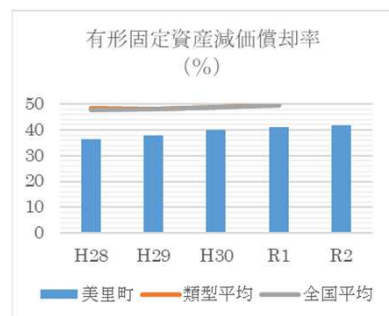
年度	H28	H29	H30	R1	R2
美里町	100.51	105.54	104.31	104.79	103.91
類型	111.71	110.05	108.87	108.61	—
全国	114.35	113.39	112.83	112.01	—



3 有形固定資産減価償却率

- 有形固定資産減価償却率は、所有する有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却が進んでいるかを表す指標
- 数値が100%に近いほど、保有固定資産の耐用年数が経過
- 本町の有形固定資産減価償却率は、全国平均を下回る水準

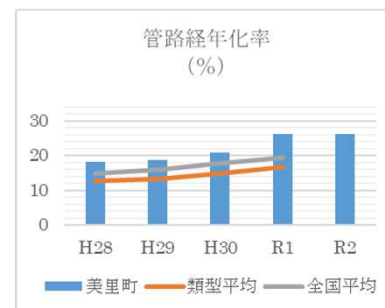
年度	H28	H29	H30	R1	R2
美里町	36.51	37.94	39.88	41.11	41.72
類型	48.49	48.05	48.87	49.82	—
全国	47.91	48.12	48.85	49.59	—



4 管路経年化率

- 管路経年化率は、法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表した指標
- 数値が高いほど法定耐用年数を超えた管路を多く所有
- 本町の管路経年化率は、全国水準を上回る水準

年度	H28	H29	H30	R1	R2
美里町	18.17	18.78	20.95	26.22	26.34
類型	12.79	13.39	14.85	16.88	—
全国	15.00	15.89	17.80	19.44	—



4 経営の基本方針について

1 基本方針

美里町水道事業は、水道水を安定供給するため、次の3つを経営の基本方針として事業運営を推進

- (安全) 安全な水道水の供給
- (強靱) 自然災害に対する体制の構築
- (持続) 健全かつ安定的な事業運営の持続

2 施策目標

(1) 安全な水道水の供給

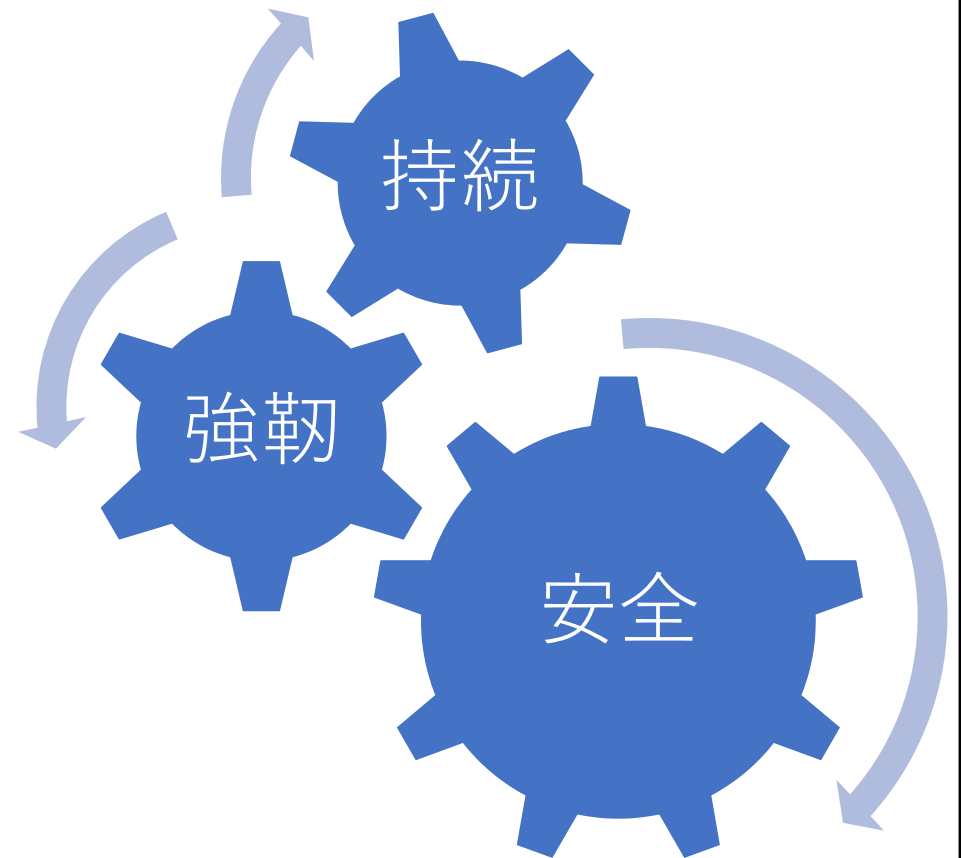
- 水質の安全管理の徹底
- 水道施設の適切な点検、修繕による水道水の安全供給

(2) 自然災害に対する体制の構築

- 災害行動マニュアルの策定
- 管路の耐震化
- 施設の浸水防止対策
- 水道設備の機能強化による災害時の給水体制の確保

(3) 健全かつ安定的な事業運営の持続

- 経営戦略に基づく計画的な事業運営
- 災害等の突発的な支出に耐えうる経営体力の構築
- 適正な水道料金水準の検討
- 将来を見据えた人材育成
- 計画的な漏水調査による予防保全と有収率向上
- 管路口径の適正化
- 水道料金の未納対策の強化による未納額の縮減



5 投資(支出)計画について

1 管路の更新等計画

- 石綿セメント管更新工事 令和11年度まで
- 美里町新鳴瀬地区配水管布設工事 令和8年度まで
- 水管橋及び鋳鉄管等更新工事 令和11年度から令和13年度まで

【更新等に係る費用】 20億5,741万円(税込)

2 管路以外の水道施設更新等計画

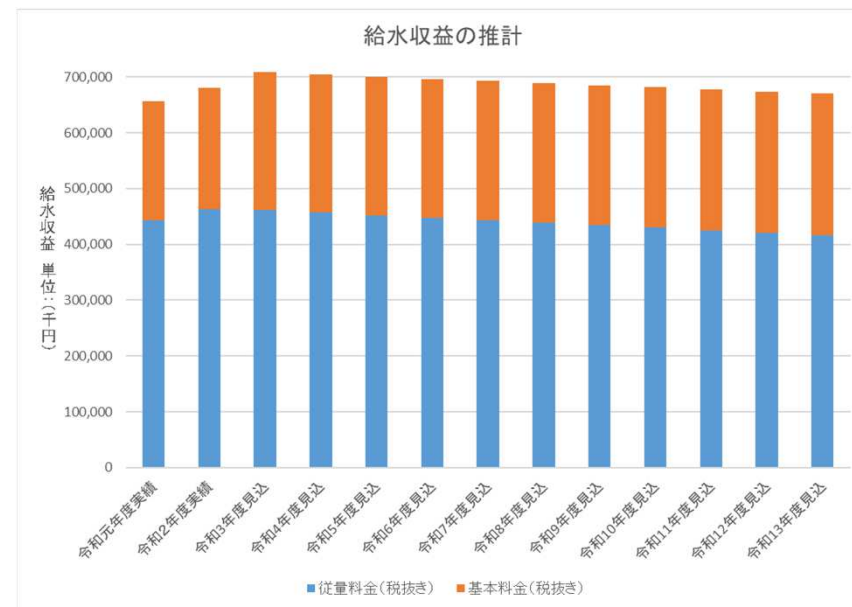
実施年度	内 容	
令和4年度	梅ノ木取水場活性炭充填設備等増設工事	
令和6年度	蜂谷森配水池階段更新工事	梅ノ木取水場浸水対策工事
令和7年度	美里町浄水場浸水対策工事	南郷地域テレメータ等更新工事
令和8年度	公共下水道接続工事	大柳計測所動力盤等更新工事
令和9年度	柿ノ木平配水場動力盤等更新工事	梅ノ木取水場取水ポンプ更新工事
令和10年度	倉庫設備工事	
令和11年度	大柳計測所圧力流量計等更新工事	
令和12年度	梅ノ木取水場計装設備更新工事	
令和13年度	柿ノ木平配水場監視装置等更新工事	梅ノ木取水場取水真空ポンプ等更新工事

【更新等に係る費用】 2億9,018万円(税込)

6 財源(収入)について

1 給水収益について

- 給水人口は、将来の人口推計から年間200人程度減少することが見込まれる。
- 給水収益は、給水人口を基に既存の使用水量及び契約件数から推計
- 給水人口が減少するため、使用水量が減少することから給水収益も減少
- 給水収益は、令和3年度の約7億900万円から10年間で約6億7000万円（約5.5%程度）までに減少することが見込まれる。



項目/年度	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 見込	令和4年度 見込	令和5年度 見込	令和6年度 見込	令和7年度 見込	令和8年度 見込	令和9年度 見込	令和10年度 見込	令和11年度 見込	令和12年度 見込	令和13年度 見込
従量料金（税抜き）	443,910	462,802	461,636	456,973	452,304	447,736	443,188	438,728	434,283	429,892	425,531	421,242	417,026
基本料金（税抜き）	213,173	218,248	247,347	247,868	248,395	248,930	249,495	250,068	250,713	251,364	252,023	252,689	253,360
合計	657,083	681,050	708,983	704,841	700,699	696,666	692,683	688,796	684,996	681,256	677,554	673,931	670,386

2 企業債の借入について

- 本町の企業債残高は類型団体と比較し、残高が多く、償還額のピークは令和4年度
- 令和5年度以降の借入額は、対象事業費の95%以下に抑える。
- 10年間で見込む借入額は、約22億円
- 令和13年度の残高見込額は、約30億円

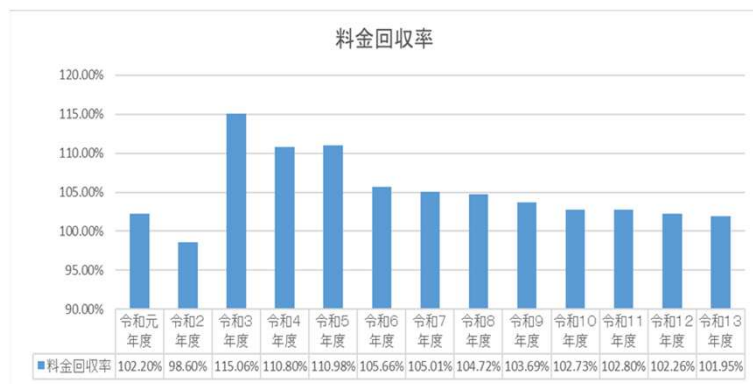
3 経費の削減について

- 安定した経営には、適切な収入の確保と経費の削減が重要
- 有収率向上の取組として、漏水調査を継続的に実施し、有収率を90%に向上させ、浄水経費を削減
- あわせて、適切な浄水量とすることにより受水量を削減

7 投資・財政計画に基づく経営指標の推移について

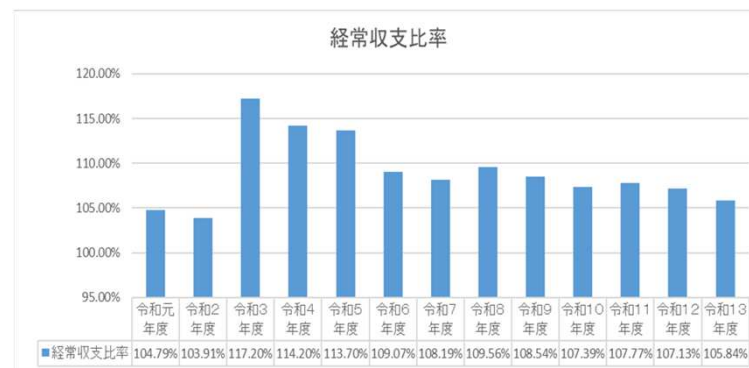
1 料金回収率

- 料金回収率は、100%以上で推移することから、給水に必要な費用を料金収入により確保
- 全国平均を上回る水準で推移するものの、給水収益が減少することにより減少が見込まれる。



2 経常収支比率

- 経常収支比率は、100%以上で推移することから、経営状況が安定
- 全国平均を上回る水準で推移するものの、料金回収率と同様に給水収益の減少による減少が見込まれる。



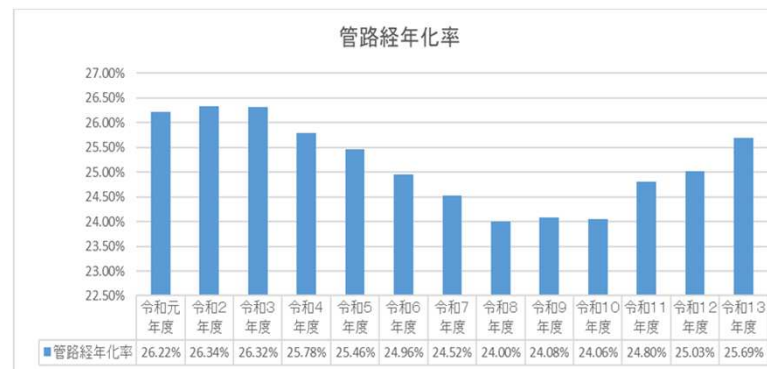
3 有形固定資産減価償却率

- 有形固定資産減価償却率は、浄水場や管路の減価償却が進むことから増加
- 令和10年度には、50%を超え現在の全国平均を上回る。



4 管路経年化率

- 管路経年化率は、全国水準を上回る水準であるものの管路の更新工事の実施により減少
- 令和10年度以降は、平成元年度以降に整備された管路が耐用年数を迎えることで増加



8 計画に未反映の取組と今後の予定等について

1 投資・財政計画に未反映な取組と今後の予定

(1) 浄水場の更新と大崎広域水道受水費との比較

- 美里町浄水場は建設から12年が経過し、施設の老朽化が進行
- 今後、施設の更新費用の増加が見込まれることから、水道水を浄水場の運営による供給と受水による供給の比較検討を実施

(2) 水道事業広域連携の検討

- 各水道事業体における共通の課題は、施設の老朽化、給水人口の減少による料金収入の減少など
- その課題を解決するための方策として、水道事業の広域化を推奨
- 宮城県内においては、宮城県主導で「管理の一体化」や事業統合による「広域連携」のシミュレーションが行われている。
- 今後、関係市町村と連携し、広域連携、広域化の検討を実施

(3) 民間委託の見直し

- 美里町水道事業は、浄水場運転管理業務、有収率向上対策業務、メーター検針及び交換業務、水道料金等収納窓口業務について民間委託を実施
- 民間委託により、業務の効率化が図られた一方で水道事業に必要な知識、技術の継承が課題
- 労働環境の改善に伴う労務単価が上昇傾向にあり、委託料の増加が見込まれることから、委託内容を検討、見直しすることが必要

2 経営戦略の検証等について

- 美里町総合計画・総合戦略と連携を図りながら、決算状況を反映し、進捗管理を実施
- 経営戦略の検証は、PDCAサイクルにより確認
- 経営戦略の見直しは、計画期間の中間年次である令和8年度に実施